

空港編（空の玄関に到着して）

リオデジャネイロには、空港が2つあります。

- 1) ガレオン（Galeão）国際空港：全ての国際便と主要国内便が発着。
リオデジャネイロ市内から北へ約15kmにあり、2つのTerminalで構成されています。

Terminal 1：GOL, British Airways, Air France, DELTA等が発着。

Terminal 2：TAM, Star Alliance加盟便, American Airlines, Emirates等が発着。

- 2) サントス・ドゥモン（Santos Dumont）空港：主に近距離の国内線が発着。
リオデジャネイロ市の中心部にあり、リオーサンパウロ間のシャトル便（Ponte Aerea）等、主に近距離路線の国内線が発着。

当地に到着後空港内において、以下の点にご注意頂けるようお願い致します。

注意点

入国の際は出来る限りラフな格好で

出張者の中には目を引く背広姿で入国される方がいますが、業務に支障のない限り私服、背広着用の場合もネクタイ無し、上着無しでの入国をお勧めします。

ブラジルに不案内な出張者には、当地駐在員の送迎が望ましい

駐在員による送迎が不可能な場合は、

- ・ 信頼できる運転手による配車・送迎が必要（出張者に運転手の氏名、身体的な特徴を予め連絡しておく）。
- ・ 出迎えのプラカードは、英字での安易な偽造を避ける為、漢字表記が好ましい。
- ・ 止むを得ず、TAXIでの移動を余儀なくされる場合、後述のTAXI編を参照願います。

出張前に必ず駐在員の連絡先、連絡方法を確認しておく

オフィス、自宅、携帯電話の番号を事前に確認し、不慮の事態に遭遇した際には速やかに連絡しましょう。尚、当地におけるコレクトコールのかけ方は、90-31（オペレータ番号、21でも可）－（市外局番：リオデジャネイロ市内なら21）－（電話番号）です。

リオデジャネイロ直行便を出来る限り利用する

サンパウロに到着し、国内線に乗り換えてリオデジャネイロに来られる場合、以下の注意が必要です。

- ・ リオへの接続便数は限られます。万一、予定していた接続便に間に合わない場合、リオへの到着が大幅に遅れて駐在員と落ち合えない懸念があります。
- ・ リオへの接続便が無い場合、サンパウロでグアルーリョス国際空港からコンゴニャス国内線空港（リオとの間でシャトル便が運航）まで無用なTAXIで移動する羽目に陥ります。
- ・ サンパウロ空港での入国審査は、他国からの到着便が同じ時間帯に重なることが多く、混雑して1-2時間待たされるといったケースも頻繁に起こっています。
- ・ （リオデジャネイロまで乗り入れる直行便の場合、入国審査はリオで行ないます）
- ・ 従い、リオデジャネイロ直行便を利用の方が安心、便利です。

空港内の置き引きに注意し、自分の荷物から決して目を離さない

少しの油断や時差ぼけから置き引きされる事件が多発していますので、自分の荷物から目を離さないよう心掛けましょう。パスポート等の貴重品は必ず身に付ける他、必要最低限の金額を入れた財布だけポケットから出し入れするに留め、それ以外のクレジットカード等貴重品は腹巻スタイル、或いはズボンの縫込内ポケット等工夫して保管しましょう。

ガレオン空港－市内を結ぶ街道(Linha Vermelha)は危険です。

ガレオン空港－市内を結ぶ街道(リーニャベルメーリャ等の幹線道路)の周囲にはスラム街が点在し、昼夜を問わず危険な地域のひとつです。警察による警戒は常時なされていますが、それでもスラム間の麻薬密売組織による抗争・銃撃戦による流れ弾での傷害事件や強盗の出没等が頻発し、空港への往復時は決して油断が出来ません。前述の通り、出来る限り当地事情に明るい駐在員による送迎をお勧めします。

ただ、出張者に対しては、駐在員の送迎の有無に拘わらず、早朝、深夜に到着/出発するフライトを避けて予定を組むように事前に打ち合わせてください。

また、一度に大勢の出張者の送迎を行う為のマイクロバスの使用は目立ち、犯罪者の格好の標的になった事件も発生しています。こういうバスの使用が止むを得ない場合、ボディーガードの存在を想像させるような同伴車を随行させる工夫もお勧めします。

万一事件に遭遇した場合は、絶対に抵抗しない

事件に遭遇した場合に備え、直ぐに手渡せるよう200レアル(約60米ドル)程度の現金は携帯しておきましょう。